［認知症対応型共同生活介護用］

1．評価結果概要表

作成日 平成 20 年 1 月 4 日

【評価実施概要】

事業所番号	2191700018		
法人名	有限会社　あいケアー		
事業所名	グループホーム　恵那苑		
所在地	岐阜県恵那市大井町字野越2729-490 （電話）　0573-20-0580		
評価機関名	ＮＰＯ法人ぎふ福祉サービス利用者センター　びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町３丁目７番地　尾関ビル		
訪問調査日	平成19年12月26日	評価確定日	平成20年2月19日

【情報提供票より】　（平成 19 年 12 月 10 日 事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成 19 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	8 人	常勤 3 人,非常勤 5 人,常勤換算 6.15 人	

（２）建物概要

建物構造	木造平屋 造り			
	1 階建ての		1 階部分	

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	49,000 円		その他の経費（月額）	16,050～ 円
敷金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	有 ／ 無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	766 円		

（４）利用者の概要　（平成 19 年 12 月 10 日 現在）

利用者人数	7 名	男性	1 名	女性	6 名
要介護１	1 名	要介護２	1 名		
要介護３	3 名	要介護４	1 名		
要介護５	1 名	要支援２	名		
年齢	平均 89 歳	最低	78 歳	最高	95 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	中部クリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高台の住宅地の中腹にあるホームからは、恵那山が眼前に広がっている。利用者には昔から見慣れた風景の中で穏かな暮らしが営まれ、利用者の表情は穏やかである。入居して症状が改善され、「表情が穏かになった」「笑顔が戻った」「オムツが取れた」など、家族からは驚きと感謝の言葉が寄せられている。理念にあるように、優しい心で支えるその具現化は、管理者・職員の表情にも顕れており、職員同士の良好なチームワークが利用者の満足と安心安全を支えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	前回評価での改善点である1人の利用者の居室を共用空間として利用していることは、民家を賃貸していることから増改築の改善は難しいが、その利用者の心理的負担のないように最大限配慮し、ケアに努めている。また、適切な栄養・カロリー把握は、近く取り組む計画である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価の視点は、その人らしい生活を優しい心で支えていくことを基本にしている。定例会議では、職員の意見を自己評価に集約し、代表者のリーダーシップの下で、改善に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議には、地域代表や家族も参加し、情報の交換、認知症の理解、グループホームの役割等幅広く討議されている。その結果、設立時にあった近隣住民の理解不足は、ホームへの理解に変ってきている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族との対話は、面会時や電話での連絡で小まめに行われているが、家族会への取り組み、意見・苦情等を汲み取るための工夫は十分ではなく、今後の課題である。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	自治会に加入し、行事等に参加している。娯楽ボランテアとの連携、近隣住民との日常の挨拶、野菜をもらったり、ホームのイベントに招待したり、日常的に交流している。

2.　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、個人を尊重し、その人らしい生活を支えていくための理念を掲げ、日々実践に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、目立つ所に大きく分りやすく掲示し、共有を図ると共に、会議の場でも確認・周知しながら取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会を通じ近くの公園に「ベンチ」を寄付したり、近隣の人をホーム行事に招待することで、地域の一員として受け入れられている。住民からは、野菜の差し入れ、時には、五平餅の差し入れもあり、交流に努めてる。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が、評価の意義を理解しており、毎月の定例会議で意見を出し合い、できることから改善に努めている。職員が同じ方向を目指し、改善課題に取り組むことで、サービスの質の向上と共に職員の連帯意識も育っている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回行われ、家族も参加して、これまでは、情報の交換や認知症の理解と接し方等が議題となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の福祉課や包括支援センターの定例会議に参加し、情報交換、介護保険環境や現況の報告を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを毎月発行し、請求書と共に届けている。さらに何かあれば、電話で報告しているが、一人ひとりの日々の暮らしの報告が少ない。	○	事業者側の思いが、必ずしも正確に理解されないこともあるので、文書による報告を工夫されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を取り入れる対応窓口の体制は整備されている。利用者や家族から感謝の言葉は多いが希望や意見を把握する機会が少ない。	○	利用者や家族の本音が引き出せる機会や場面づくりに努められ、運営に活かせる取り組みに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	近年は、定着率が高く、異動も行われていない。代わる場合には、ゆっくり馴染んでもらうため言葉掛けなど、配慮するように周知している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の調整に苦労しながらも、職員には、年に1回ほど研修等に参加する機会を提供している。	○	利用者の状態は、今後、加齢に伴う機能低下や認知症の変化も現れ、さらに職員のケアに専門性が要求されてくると思われる。そのためにも計画的な人材育成の取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内及び近隣市にある複数の同業者と、職員同士による相互交流を、不定期ではあるが行い、運営者は常に福祉をとりまく新しい情報収集に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居もあり、利用者の特徴を把握しながら少しずつ慣れてもらうように努めている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物タタミや居室の清掃、食事の準備など出来ることは自ら進んでやってもらっている。季節の食材を利用した料理法を利用者から学んだり、畑づくりや計算の得意な人もおり、一緒になって楽しんでいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	畑仕事に時間を忘れて熱中する人、仏壇が気になる人、帰宅願望の強い人等、思いを把握し、家族と相談しながら支援している。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	全職員から、課題を集約し、家族の意見も聴きながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの定時の見直しと、心身の変化に応じて、随時、見直しを行っている。その際、家族、ケアマネジャー等の関係者と相談している。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医院への受診移送、専門医科への移送を無償で提供している。また、1～2名の少人数の希望する場所への外泊の移送も支援している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意を得て、提携医をかかりつけ医と定めている。必要に応じ専門医の受診と、歯科医は二箇所の医院と提携し、受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合には、早めに医師、家族や関係者と相談し、ホームで出来るところまで対応することを方針としている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねないように、優しい言葉かけに徹している。記録等は保管場所を定め、管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中で、本人のできることが、自然と定まっている。起床時間、就寝時間、屋外作業、玄関掃除など、本人のペースで過ごしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事づくりの準備段階から話し合い、好きな食べ物を聴いて、献立を一緒に作っている。職員も一緒に食事を摂り、片付けも一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週に2～3回提供し、希望者には4回入ってもらっている。入浴を楽しみにしている利用者が多く、出来るだけゆったりと満足いく入浴を支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農業の経験者が多く、畑仕事、草取り、散歩も楽しみであり、時々、近くのスーパーでの買い物や喫茶店に行くのを楽しみにしている。利用者の大きな楽しみになっている温泉旅行が職員の努力で実現している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くに公園があり、手ごろな散歩コースになっている。喫茶店、買い物、おにぎり持参のドライブなどを支援している。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けないように、開設当初より実践している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、消防署の指導を受けて、防災・避難訓練を行っている。冬季は、石油ストーブの取り扱いに、細心の注意を払うように、職員の教育が徹底されている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに必要な食事の摂取量と水分は、一日を通じおよそ把握し、常に健康状態に気を配っている。	○	さらに食事内容や食事量、水分量のチェック表を提示し、専門家のアドバイスを得る機会があると良い。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般住宅家屋の設えで利用者には我が家にいる様な居心地の暮らしが実現できている。家主との賃貸契約で増改築はできない制約があり、食堂と南に面した眺めの良い利用者の居室が、共用の場所になっていたり、トイレも狭く一箇所のみであるため、ポータブルトイレを併用している。	○	建物の使用に制約がある分、工夫の努力が伺えるが、利用者の居室としての機能が失われることのない様、十分な配慮が望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真、小物類、時計など最小限の持ち込みがあり、狭くならないように、使い勝手の良い居室づくりに配慮している。		

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。